

高橋尚愛

This is Hisachika Takahashi, 2021

MISAKO & ROSEN

2021.2.28 - 3.28

紐であぞぶ猫 (1970 年)

高橋尚愛が初期の頃に制作したポストカードを漂白してイメージを消し去るという作品のひとつです。漂白されたカードを紙の上で動かし、尚愛が痕跡を残しています。この作品は、記憶とコラボレーションに対するアーティスト自身の関心を表す基本的な例です。

無題 (壁に貼られたコラージュ作品 1973 年)

アメリカの雑誌 (ライフ誌、エスクワイア誌、プレイボーイ誌、サイエンティフィックアメリカン誌) で制作されたコラージュ、尚愛のクレヨンとパステルで描いたドローイングと、壁にテープで留めて (本展覧会では当時のテープを残して磁石で展示) フレームなしで展示するという彼の主張で作品は完成しました。これらのコラージュ作品は、1970 年代初頭のアメリカの文化的生活のスナップショットたちです。セックスや政治、ファッション、旅行、そしてレジャーまで。現在で言うところの SNS の Instagram 画像が乱用する以前のアナログ的な表現。これらの作品は、1973 年に「112 グリーン・ストリート」というニューヨークのアートシーンの中でも歴史のあるアーティストランスペースにて展示された。(「112 グリーン・ストリート」は現在は「ホワイト・コラム」というスペースで運営されている)

思い出のないハットピースの思い出 (1970 年 - 1973 年)

尚愛の最愛の帽子のドキュメンテーションに捧げられた一連の作品のひとつ。このポラロイドのセット作品は、1973 年にイレアナ・ソナベンド (1914 年 - 2007 年) が運営していたソナベンドギャラリーにて展示されました。帽子の写真は、逆説的に、将来のアーティストを含む、アーティストの自画像として機能します。当時の記録がカタログとして残っています。

ミラー・ピース (1972 年)

「112 グリーン・ストリート」というアートスペース (現在は White Columns として知られている) で展示されたこの作品は、尚愛のアーティスト仲間から借りてきた鏡で構成されたインスタレーションでした。尚愛がコレクターのジョン・デ・メニル氏の家に滞在した際、シュールレアリズムのアーティスト、ルネ・マグリットの絵画「ル・ソワール・クイ・トンベ」(1964 年) の下で眠っていたことから、インスパイアされました。鏡は、彼らが保存した思い出を提示し、展覧会へ訪れた人々の存在を捉えることを通じて新しい思い出を生み出すことを目的としていました。

This is Hisachika Takahashi, 2021 MISAKO & ROSEN 2021.2.28 - 3.28

Kitten Plays with String (1970)

An early example of Hisachika's use of bleach to erase the image of a found postcard. Moving the bleached card across the paper, Hisachika left a trace; the work a foundational example of the artist's interest in memory and collaboration.

United (unframed collage works from 1973)

Collaged together US magazines (Life, Esquire, Playboy and Scientific American), the works were completed with Hisachika's marks in crayon and pastel, as well as his insistence that they hang unframed, taped to the wall (with magnets in the present exhibition). The collages offer a snapshot of American cultural life in the early 1970's - from sex and politics to fashion and travel and leisure; an analog expression pre-dating the present Instagram image assault.

Memory of No Memory Hat Piece (1970-1973)

One of a series of works devoted to the documentation of Hisachika's beloved hat; this set of polaroids was exhibited in the gallery of Ileana Sonnabend in 1973; the hat photographs serve as self-portraits of the artist - including, paradoxically, the artist in the future.

Mirror Piece (1972)

Exhibited at 112 Greene St. (now known as White Columns), this work consisted of mirrors loaned to Hisachika by his artist friends. Inspired by Surrealist artist Rene Magritte's painting *Le sour qui tombe* (1964), under which Hisachika slept as a guest at the home of collector John de Menil, the mirrors were meant to present the memories which they stored - as well as to generate new memories through capturing the presence of visitors to the exhibition